



2026年5月14日

各位

会社名 トレンダーズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 黒川 涼子
(コード番号 6069 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 田中 隼人
TEL 03(5774)8876

通期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2026年3月期通期連結決算において、2026年2月13日に公表した業績予想の修正値と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異

2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 8,300	百万円 800	百万円 800	百万円 390	円 銭 49.82
今回発表実績(B)	8,278	727	724	216	27.76
増減額(B-A)	△21	△72	△75	△173	
増減率(%)	△0.3	△9.1	△9.4	△44.4	
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	6,191	988	991	600	76.19

2. 差異が生じた理由

営業利益については、マーケティング事業において複数案件の実施時期が2027年3月期第1四半期以降にずれ込んだこと、特定のSNSプラットフォームにおいて一時的な広告配信停止推奨措置が行われ広告運用施策の粗利(※)が減少したこと、貸倒引当金を追加計上したことにより販管費が増加したこと等を要因として、業績予想を下回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、営業利益の下振れに加え、2026年2月の業績予想修正時点では想定をしていなかった営業外費用、特別損失を計上したことに加え、税効果会計による影響も生じたことにより、業績予想を下回る結果となりました。

なお、粗利が想定を下回った一方、売上高が概ね業績予想通りとなったのは、しるし社における一部取引の計上方法を純額から総額へと変更したことにより売上高が想定を上回ったためです。

今回の下振れについては、主に期ズレや保守的な会計処理の採用に起因しており、2027年3月期以降、粗利の増加や費用、法人税等の減少により、各段階利益の増加に繋がることを見込んでおります。

(※)粗利：売上高から商品・サービスの提供に直接紐づく外注費のみを差し引いた利益

以上